釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）２月19日発行　VOL 47

学校経営のパートナー

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

先日、12月に実施した学校評価の結果をホームページに掲載しました。７月と比べて多くの項目で肯定的な回答の割合が増えていましたが、各種メディアの活用や生活習慣の確立等においては、課題が継続していることが分かりました。また、「保護者アンケート」では、学校改善に関する貴重なアイディアをたくさんいただきました。今後の学校経営に生かしていきたいと考えているところです。

さて、「保護者アンケート」について、ある保護者の方から「今年度から『目指す生徒の姿』の実現状況について、保護者が自身の取組について評価することになっていますがどうしてですか」という御質問をいただきました。とても大切な質問をしていただいたと感謝するとともに、このことについて丁寧に説明していなかったことお詫び申し上げます。そして、改めて説明させていただきます。

皆さんも御存知のとおり、学校の主な教育活動は「学習指導要領」の趣旨や内容を踏まえ実施されます。現行の学習指導要領は2017年（平成29年）３月に告示され、中学校においては、2021年（令和３年）４月から全面実施されました。今回の学習指導要領には初めて「前文」が付けられ、そこに「①よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有する」、「②必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にする」、「③社会との連携及び協働によりその実現を図っていく」と示されています。

つまり、生徒たちの教育は、学校・家庭・地域が学校が目指すゴールを共有して、対等の立場で連携・協働していくということを前提として考えていかなければならないということです。このことを「社会に開かれた教育課程」と言っています。生徒たちの教育という観点において、保護者や地域の皆さんは私たち教職員にとって「パートナー」です。

ところで、学校にとっての「お客さん」は誰だと思いますか。生徒たち、これは言うまでもありませんが、教職員、保護者や地域の皆さんなど、学校教育に携わる全ての人たちであり、更に突き詰めれば、それは社会ということになると思います。

なぜなら、社会で活躍できる十分な力を付けて、生徒たちを社会に送り出すことが学校の使命だからです。ここで言う「十分な力」とは、偏差値の高い学校に入れることでも、一流の会社に就職することでもありません。自分のよさを輝かせ、社会の中で役立つことを喜べる力です。主体的に社会にかかわり、よりよい社会をつくれる力をもった生徒たちの存在は、社会を幸福にします。そして、社会のために役立つ自分を実感できることで、生徒たち自身も幸福になります。そのような生徒たちが育つ学校をつくっていくことで、私たち大人は幸福になれると考えます。

地域の中にある学校として、家庭や地域との連携なしには学校経営は考えられません。学校経営のパートナー同士で、学校を核とした幸福の好循環を形づくっていきたいですね。